

## 鉄道施設の浸水対策

これまでも激甚化する気象災害に対し、ハード・ソフト両面から対策を進めてきました。これからの台風シーズンを前に、浸水が想定される鉄道施設及び車両への対策をお知らせします。

### 1. 浸水対策の考え方

鉄道運行に著しく影響を及ぼす重要施設及び車両のうち、計画規模降雨(※1)で浸水が想定される施設を対象とし、ハード・ソフト両面から対策を実施します。

対象施設		新幹線 (山陽・北陸)	在来線
総合車両所 ※2	総数	2	5
	対象箇所	0	2
車両留置施設	総数	16	123
	対象箇所 ※3	2	44
電気施設 (信号機器室・ 指令所)	総数	約70	約1,000
	対象箇所	約10	約150

※1 河川整備において基本となる規模の降雨  
年超過確率1/数十～1/200程度  
※2 新幹線の白山や博多、在来線の吹田や網干など  
大規模検査を行う機能を有する車両所  
※3 浸水想定がある新幹線車両留置施設  
2箇所の想定浸水深(計画規模降雨)はいずれも0.5m未満

▲浸水が想定される重要施設の箇所数

### 2. 浸水対策 (ハード・ソフト)

#### (1) 浸水防止対策

- ・ 止水板、止水壁の設置、土のうによる防水対策
- ・ 各箇所共通活用できる予備品の確保
- ・ 電気施設の一部は、今後の設備更新にあわせて高所への移転を検討

#### (2) 車両避難対策

- ・ 浸水しない他の車両留置施設や駅に避難させる車両避難計画の策定

### 3. 車両避難判断支援ツール

気象会社と連携し、河川ごとに判断する指標を定め、一定時間前に個々の浸水被害発生の有無を予測するツールを導入しました。これを活用し、各支社や指令所で車両避難の判断・実施を行います。



箇所名	河川名	車両待避判断 (基準値超過日時)			
		12時間 以内	12~24 時間後	24~48 時間後	48時間後 以降
A車両所	a川	○	○	○	○
B車両所	b川	○	○	× (●月●日 ●時●分)	×
C駅	c川	○	○	○	○

・ 表中の「○」: 基準値未満  
「×」: 基準値超過を示す  
・ ×の場合は、基準値超過となる直近の日時を表示

▲車両避難判断支援ツール画面イメージ

#### 4. 計画運休タイムラインのイメージ

車両避難を行う場合、留置している編成を別の浸水しない箇所に移動させるのに相当の時間を要します。このため、通常の場合よりも、運転見合わせ開始時間がかなり早まり、運転再開時においても、通常の場合よりも時間を要すると想定しています。お客様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

時間	車両避難を伴う計画運休	車両避難を伴わない計画運休
前日	計画運休 + 車両避難決定	計画運休決定
	営業運転終了	営業運転終了
当日	<b>車両避難</b>	営業運転終了
	台風上陸・通過	台風上陸・通過
	設備点検	設備点検
	<b>避難車両移動</b>	運転再開
	運転再開	

は列車を計画運休する時間帯